

ゲートウェイ バイブル アカデミー 4th, March
クリスチャンリーダーシップとは？（パート1）

定義

クリスチャンリーダーシップとはなんのでしょうか？私の定義では、生ける神のように、目的を持って他人に影響を与える人々の事です。リーダーシップとは他人に影響を与える事であって、必ず重複する部分もありますが、どうかシステムをメンテナンスするマネジメントと混同しないようにしてください。

使徒の一人パウロは、フィリピの教会に宛てた手紙の中でこう書いています。

「私から学んだこと、受けたこと、わたしについて聞いたこと、見たことを実行しなさい。」（フィリピの信徒への手紙 4章9節）

すべてのタイプのクリスチャンリーダーがあります。クリスチャンリーダーとは、どんな姿をしているのでしょうか？よく、ただ紅茶を飲み、現実の世界に出て行こうとしない軟弱な牧師の風刺を目にします。彼は、十分に善い人ではありますが、とても弱いです。または、さらにステレオタイプでいうと、すべてはアクションとエネルギーを使ったテレビ伝道師です。それともなければ、例えば、残念な事に児童虐待で注目を集めている、他人の弱みに付け込むタイプのリーダーです。

真のリーダーは、これらのどのタイプにもあてはまりません。クリスチャンリーダーシップは、いろいろな形があります。たとえば、クリスチャンの親御さんはそれぞれの子供たちを牧会しているように、誰もがリーダーです。この親御さんの概念は、さらに深くクリスチャンリーダーシップとは何かを考えるのに、とてもよい実例です。

愛情に満ちた親は、子供たちにふさわしいステージ—つまり子供たちが次の発達段階に行く準備ができていのかどうかに応じて、自分たちが知っている事を伝えます。立派な親は、よいロールモデルになろうとし、まだ見ぬ危険から子供を守り、将来のために準備をします。

大まかな意味で、クリスチャンリーダーシップと育児のお手本を置き換えてみましょう。クリスチャン一人ひとりが、信仰の若いほかのクリスチャンや、まだキリストを受け入れていない人たちに影響を与えるリーダーとしての可能性を秘めています。クリスチャンとしての知識を伝え、よいロールモデルとなり、まだ見ぬ危険から他のクリスチャンを守り、将来の準備、とりわけ、永遠の命を頂いて救い主からの使命を成長させる手助けを可能にするのは、じつに、すべて影響力なのです。

クリスチャンリーダーシップの世界へようこそ！

このモジュールでは、どんな種類のクリスチャンリーダーシップを見なすか？

このモジュールでは、あるレベルのリーダーシップ、1対1はもちろん、グループの中のリーダーを見ていく事にします。ゲートウェイの観点からは、シャイン（子どもミニストリー）、グロースグループ（週の半ばの交わり）、または特定のミニストリー（たとえば、債務カウンセリング、フードバンクや他のミニストリー・プロジェクト）の各リーダーが、これにあたります。人々の集まりの監督か集団のネットワークがあるリーダーシップの形かもしれません。

たとえば、牧師や長老のような社会や教会の外の人たちとじかに関わりを持つクリスチャンリーダーシップの形かもしれません。私はこのモジュールで、特別な教会の役割を念頭におき、いくつかの種類リーダーシップの監督にぴったりな、クリスチャンリーダーシップを取り上げる事に決めました。

とは言うものの、このモジュールの基本は、職場や家庭・教会外の組織に属していてリーダーの責務があるクリスチャンにも当てはめる事ができます。シンプルな目的のリーダーシップです。私は、試合開催日にバーズリーフサッカークラブでスチュワードをしています。時々、第1試合目か2試合目に、新人のスチュワードさんたちがやって来ます。そして経験があるスチュワードとペアになります。彼らはリーダーシップスキルゼロと言っても同然かもしれませんが、責務をどう全うするか新人さんに影響を与える、豊富な知識とイニシアチブがあります。

もうお気づきかもしれませんが、それぞれ3つの違ったレベルの教会リーダーシップがあります。

1. スモールグループ 週の半ばのグロースグループまたはシャインを担当
2. エリアリーダー すべてのグロースグループのコーディネートとグループリーダーを元気付ける担当。
または、シャインのコーディネートとシャインリーダーをバックアップし、問題に対処する担当。
3. 総合リーダー これは、私たちのいう牧師になります。それぞれのスモールグループには関与はしませんが、他の教会リーダーたちと一緒に管理をします。

ほとんどのリーダーは、レベル1が適していると思います。

その中から、更なる経験・賜物とスキルが必要とされる次の段階にいく人がいます。どのレベルであっても、適任者に割り当てられたリーダーシップ（または役割）は聖霊やまたは、超自然的な賜物によって強化されるのです。

どちらにせよ、神様からの賜物であるので、誰もうぬぼれることはできません。（コリントの信徒への手紙一 4章7節）したがって、違ったタイプのリーダーシップがあるだけでなく、違ったレベルのリーダーシップもあるということを気に留めておいてください。神の教会では、リーダーシップの役割はすべて（形式上またはそうでなくても）重要であり、一緒に合わさることで初めてキリストの体になるのです。（コリントの信徒への手紙一 12章を参照のこと）

イエス・キリストの教会は、生ける神のように、すべての人々に影響を与えるのです。

リーダーシップの形として子育てのたとえに話を戻すと、面白い事に、新約聖書は親と教会リーダーを比較しています。（テモテへの手紙一 3章4節）

もし保護者が家庭を運営できていないとしたら、そのような人がどうやって神の国の人々の面倒を見れるのでしょうか。

教会リーダーは完璧な子どもを持つべきだと言う事ではなくて、紛れもなく、物事がうまくいかなくなったときにどう対処するかと言う事なのです。

次に何をすることが重要です。同じように、教会ライフにはいつも問題がつきものであり、どの段階であろうともリーダーとしてどう反応することが重要なのです。

結局は、リーダーシップとは常に問題に対処する事なのです。

中でも、よいクリスチャンリーダーシップとは、イエス・キリストの福音の力で人々の人生を変えている、まさに成長し続けている教会での、不可欠な特性なのです。よく教会はリーダーを反映しています。よく子どもは、よい親に育てられているのか悪い親に育てられているのかどうか、外の世界には映し出されます。

常にそうとは限りませんが、しかし一般的にはそうであって、同様に、教会はリーダーを映し出し、成長している教会には、いつもよいリーダーがいるのです。

先天的・後天的クリスチャンリーダーシップ

責任のあるクリスチャンリーダーは、役割を全うするためにその人に豊富な知識があるか、または少なくともすぐに学べる人だということを意味しています。

たとえば、グロースグループのリーダーは、満足のいくようにグループを導いていけるよう、そして間違った主張がなされた時に気づけるよう、基本的な聖書の知識が十分にある事が必要です。

なので、そのような人は必要な専門知識がある人です。その専門知識はたとえばバイブル・アカデミーなど、さまざまな方法で習得できます。

しかし、知識に加え、生まれ持った賜物・素質も必要になってきます。

その人というのは、グループの人々とコミュニケーションが取れ、関わりを持つ能力が自然に備わっている必要があります。

最初の部分でお気づきのよう、知識は備わるものです。

リーダーの役割を見たときに、そうです。そのポジションについて学べますし、関連した役立つスキルと一緒に訓練もされます。他の例としては、ゲートウェイのシャインリーダー数人は、地域の教会のためにトレーニング・デイに行っていて、

具体的には、キッズ・ユースグループのリーダーの手助けをする目的があります。

知識は備わるものと言いましたが、その次に、生まれ持った賜物・素質はその人特有のもので、もちろん生まれ持った能力は、用いられ、はぐくまれるべきですが、やはり、あなたにそしてあなたの人格に主が授けられたものなのです。なので、備わった知識とスキルを併せ持った、生まれながらの賜物を持ったあなたが役割にぴったりフィットするかもしれません。

それとも、たとえば丸い穴に四角いくいのように mismatch に、なるかもしれません。「才能と言うのは、単にそれで何ができるかではありません。才能があれば、それを活用させずにはられないものなのです」

しかしながら、成長して有効的であり続けるリーダーというものは、生涯学びつづけるリーダーです。学びをやめる事は決してできません。クリスチャンリーダーシップにおいて、読書は絶対不可欠です。読書好きゆえ、あっという間に本を読み終わる人がいる一方、読むのに悪戦苦闘する人もいます。

経験から言って、リーダーは忙しい人たちです。なので、読書のための時間を必死に確保しないとイケません。トップのリーダーたちというのは、絶えず何か読んでいる人たちのことで、常に学んでいます。

私は宗教に関係ない世のリーダーたちの自伝をいくつか読みましたが、彼らは読書家です。

トップリーグのサッカーチームの監督も、本を読む人たちです。

首相は、常に読書しています。

いつの世も世界的に名の知れたリーダー、使徒パウロがいます。皆さんは、特に彼の晩年にしたがって、パウロはその偉大さのために読書などもう必要なかったのではないかとお思いかもしれません。しかし彼は、このように書いています。

「あなたが来るときには、わたしがトロアスのカルポのところに置いてきた外套を持ってきてください。また書物、特に羊皮紙のものを持ってきてください。」

(テモテへの手紙二 4章13節)と書いています。

偉大な使徒パウロでさえ、晩年もまだ学びを続けていたのですから、私たちもさら

に学ぶ人であるべきです。他にも学ぶ方法はありますが、（ふさわしい本であると仮定して）本を読むことは考えを成長させ、知恵と知識を増やし、有意義なものだと証明してくれます。

違う解釈のクリスチャンリーダーシップ

どんな種類のリーダーになるべきかまだわからない、といま思っているらっしゃるかもしれません。第3週と4週では、「主からの使命を見定める」を予定しています。主が天職として示されたことをやっているんだと確かめたり、または新しい可能性に導く手助けになればいいと思います。

主の思し召しは、クリスチャンリーダーシップには絶対欠かせないものです。

私のお気に入りのモットーのひとつに、「主が示されたなら、主が必要なものを備えてくださる。」があります。

すなわち、主がリーダーになりなさいと示してくださったのなら、そのリーダー職のために備えてくださいます。

クリスチャンリーダーシップに一番重要なのは、思し召しだけでなく、人格もそうです。

信心深さがなければ、クリスチャンリーダーは絶望的です。

もう一度言います。これは必須の重要事項なので、第5週と6週目にも時間を設けてあります。

クリスチャンリーダーのほかの特徴は、どこに向かっているのか、行き先はどちらかを知る必要があると言う事です。

ビジョンなしのビジョンであれば、またそれも絶望的です。

乗客をたくさん乗せたバスの運転手みたいなものです。運転手さんの役割は、ご一行を確実に目的地へ運ぶことです。

もし、誰もどこに行くのか知らなかったら災難です。もし、その運転手さんが方向音痴で目的地までのルートを知らなかったら、それも災難です。

導く方向性をわかっていないクリスチャンリーダーは終わっています。

導いていく現実的なビジョンとアイデアは、なくてはなりません。

やる気が重要です。そうでなければ、悪戦苦闘してしまいます。

ビジョンはやる気をおこさせる重要なファクターで、これは第7週と8週にやる予定です。

クリスチャンリーダーになるにあたり他に知っておいてほしいことは、「ローン・レンジャー」みたいなものではないということです。

「チームの一員になる」というコンセプトは、聖書にも書かれているとおりです。チームで行わなければ、そこでローン・レンジャーとなり、破滅に終わります。チームを成長させるということは重要で、ビジョンをかなえるということです。これが第9週と10週です。

一夜にしてすべてできるということは、ありえません。

たくさん時間がかかります。磨きがかかるまでに、じつに数年はかかります。

主の目から見たら、私たちは、未完成なのです。

ということは、前進あるのみで、あなたのリーダーとしてのポテンシャルは一夜にして成し遂げられません。

忍耐力が求められます。

最終的に主がこうなってほしいというクリスチャンリーダーになるための不可欠な事項は、他にもあります。

「コミュニケーションの重要性」「優先順位を理解せよ」「荒れ狂ったときを乗り越えよ」「常にフレッシュでいよ」

「最後までやり遂げよ」「バトンを手渡せよ」「先々の見通しをつけよ」などです。

(第11週から17週目)

考えさせられる言葉があります。「リーダーの本当の評価は、どこで取り掛かるかではなく、どういう結果になるか」

当然のことだが、おろそかにされやすいこと—クリスチャンリーダーの基礎

あなたが認識し保障すべきクリスチャンリーダーの絶対的基礎は、あなたと他のリーダーたちの人生における、証拠です。

もし、そうでなかったら、アラームを発してください。

クリスチャンリーダーというものは、地獄から天へイエス・キリストに救われ、罪の赦しを受けたことを知っている人のことです。

リーダーたちに、安全を保障する約束です。

「事実、あなたがたは、恵みにより、信仰によって救われました。このことは、自らの力によるのではなく、神の賜物です。行いによるものではありません。それは、だれも誇ることがないためなのです。なぜなら、わたしたちは神に造られたものであり、しかも、神が前もって準備してくださった善い業のために、キリスト・イエスにおいて造られたからです。

わたしたちは、その善い業を行って歩むのです。」（エフェソ 2章8-10節）

したがって、リーダーになったからといって救われるものではありません。がしかし、リーダーになる事は、弟子の身分の一部であり、主の慈悲と恵みに対するあなたの反応の完遂なのです。

リーダーは、三位一体の神と、現存する本当の関係によって結ばれています。—あなたが形作った父なる主を知り（詩篇139章）、主に栄光をもたらすために、目的のためにあなたを救われた御子なる主を知り（使徒言行録6章5節）、あなたを満たす聖霊の主を知ること。

さらに、クリスチャンリーダーは、父・子・聖霊からなる主の言葉として聖書に誓う人なのです。

「聖書はすべて神の霊の導き下に書かれ、人を教え、戒め、誤りを正し、義に導く訓練をするうえに有益です。

こうして、神に仕える人は、どのような善い業をも行うことができるように、十分に整えられるのです。」（テモテへの手紙二 3章16-17節）

実に、個々に第一に言葉を通して、また、聖書の合意にあるように様々な2番目の方法で、主が語りかけておられるということをクリスチャンリーダーは証明できます。（聖書の言葉、預言、夢、誰かの証や特別な状況から湧き上がった、心と気持ちに基づいた強い印象）

もしリーダーが主の救いを知らずして、例えば祈りや、聖書や、他のクリスチャンと会うことなど、恵みによって主と共に歩いている感覚を知らずして、そのようなリーダーは遅かれ早かれ、不安を訴えるでしょう。

すなわち、天から降りてこなければ、どこからアイデンティティーや目的の感触が来て、どこでアファメーションを受け取ると言うのでしょうか。

父を知り、御子により救われ、聖霊によって満たされて、あなたは主なアイデンティティー、目的、アファメーションが与えられるのです。

この保障なしに教会に奉仕するなら、いろいろな方法で、不安が出てきます。

このような教会の奉仕者は、よくアイデンティティーとアファメーションを受け取るために、他の人々やミニストリーをあてにします。

アジス・フェルナンドはこのように書いています。

「キリストにおいて喜びでいっぱいアイデンティティーをしっかりと持っている人は、気取ったり、傲慢になったり、他人を見下す必要がありません。

彼らにとって人は脅威ではないのです。それは、永遠の主が永遠の意味を与えておられるからです。」

結論

真のクリスチャンリーダーシップとは、己の野心を果たすための独りよがりでも、権力闘争でも、自己満足の旅でもありません。

他の人のほうが合っているかどうかに関係なくです。

真のクリスチャンリーダーシップとは、洗脳や他人の操作ではなく、本質的に他人に奉仕することです。

これは、主のように他人に影響を与え、主の使命を果たし、キリストを中心とし、自分の目的を知り、他の人を導く事です。

これは、パート2でお話します。

最後に、使徒パウロの言葉で締めくくみましょう。

影響力のある手紙の中で、彼は若者テモテへこのように書いています。

「キリスト・イエスによって与えられる信仰と愛を持って、わたしから聞いた健全な言葉を手本としなさい。」

(テモテへの手紙二 1章13節)